

## S.E.N.S 養成カリキュラム シラバス (2023 年度版)

### A. 概 論

#### ◇ S.E.N.S の役割と倫理 (3時間: 1P)

##### 【 概 要 】

「発達障害: 学習障害 (LD/SLD)、注意欠如・多動症 (ADHD)、自閉スペクトラム症 (ASD)、発達性協調運動症 (DCD) 等」の特別支援教育の専門資格である S.E.N.S の役割について説明する。S.E.N.S が果たすべき役割には、子どもの問題への気づきと支援、保護者や学級担任への支援、校内・地域での特別支援教育のコーディネーター等が挙げられるが、これらの役割には、専門的な知識・技能と高い倫理性が求められる。S.E.N.S が役割を果たす上で、遵守すべき事項 (特別支援教育士倫理綱領) について説明する。

##### 【 キーワード 】

特別支援教育士倫理綱領 / 人権への配慮 / コンサルテーション / インフォームドコンセント / 守秘義務

##### 【 到達目標と評価 】

- ① 対人援助の専門資格としての職業倫理について説明できる。
- ② S.E.N.S のさまざまな役割、その内容と意義について説明できる。
- ③ 発達障害のある子どもの支援に際し必要な人権への配慮、インフォームドコンセント、当事者の自己決定権、守秘義務について説明できる。
- ④ 専門資格としての研鑽の重要性を理解し、スーパーバイズとコンサルテーションについて説明できる。

#### ◇ 特別支援教育概論 I : 発達障害の理解 (3時間: 1P)

##### 【 概 要 】

障害の捉え方についての基本的理念の変遷と動向を明らかにする。「発達障害: 学習障害 (LD/SLD)、注意欠如・多動症 (ADHD)、自閉スペクトラム症 (ASD)、発達性協調運動症 (DCD) 等」について、その用語の歴史的変遷と動向、定義について明らかにするとともに、基本的な特性について述べる。近年、「障害」という捉え方からニューロダイバーシティ (脳の多様性) という捉え方に変わりつつある。ギフテッドや 2E という才能という側面からの捉え方についても解説する。発達障害のある児童生徒に対して、状態像・必要な支援を中心に、特別支援教育の対象をめぐる基本的事項について解説する。

##### 【 キーワード 】

発達障害: 学習障害 (LD/SLD)、注意欠如・多動症 (ADHD)、自閉スペクトラム症 (ASD)、発達性協調運動症 (DCD) 等 / ICF (包括モデル) / ニューロダイバーシティ (脳の多様性) / ギフテッド / 2E

##### 【 到達目標と評価 】

- ① 障害の捉え方についての基本的理念の変遷と動向について説明できる。
- ② 「発達障害: 学習障害 (LD/SLD)、注意欠如・多動症 (ADHD)、自閉スペクトラム症 (ASD)、発達性協調運動症 (DCD) 等」を概観し、定義と状態像、近接領域との関係について説明できる。
- ③ 「発達障害」から生じる二次的な問題を具体的に挙げるができる。
- ④ 「発達障害」の学習・行動面への支援の基本方針について述べるができる。

## ◇ 特別支援教育概論Ⅱ：特別支援教育のシステム（3時間：1P）

### 【 概要 】

我が国における「発達障害」への支援の取組を歴史的に概観する。学習指導要領（平成 29 年改訂版）、「障害のある子供の教育支援の手引」及び関連の報告・通知などの文部科学省の基本方針、及び関係法令（改正発達障害者支援法、改正障害者差別解消法、医療的ケア児支援法）等を踏まえて、特別支援教育のあり方について解説する。その上で、主に学校における特別支援教育のあり方とシステム等として、支援体制、特別支援教育コーディネーター、個別の指導計画と個別の教育支援計画、巡回相談、特別支援教育支援員、特別支援学校のセンター的機能、自立活動、就学の手続き、などについて述べる。

### 【 キーワード 】

法的な整備と動向：発達障害者支援法・障害者差別解消法等／インクルーシブ教育システム／合理的配慮／学校における支援システムの構築／関係機関との連携

### 【 到達目標と評価 】

- ① 特別支援教育の意義とシステム、学習指導要領や関連する法令等の整備と動向について説明できる。
- ② 学校における支援システム、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員の役割などについて説明できる。
- ③ 学校におけるさまざまな発達障害への支援体制を整備していく上で重要な課題を挙げるができる。

## ◇ 発達障害と医療（3時間：1P）

### 【 概要 】

「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」と関連する医学領域における知識・知見の基本について、DSM-5、ICD-11 による診断基準と薬物療法をはじめとする医学的アプローチを中心に解説する。発達障害の併存、合併症などの他、発達障害に関する最近の医学的研究の動向も紹介する。医療と教育の連携のあり方についても述べる。

### 【 キーワード 】

DSM-5 / ICD-11 / 発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等／薬物療法／医療と教育の連携

### 【 到達目標と評価 】

- ① DSM-5、ICD-11 における「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」の診断基準の概要について説明できる。
- ② 発達障害と関連する医学領域における知識・知見の基本について説明できる。
- ③ 「発達障害」に関連する併存・合併症について説明できる。
- ④ 「発達障害」に関連する薬物療法、種々の医学的アプローチについて説明できる。
- ⑤ 医療と教育の連携について説明できる。

## B. アセスメント

### ◇ 総論：アセスメント(3時間：1P)

#### 【 概要 】

「発達障害：学習障害(LD/SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、発達性協調運動症(DCD)等」について、乳幼児期から青年・成人期に至る特性の発達のな変化と発達課題の概要を押さえた上で、その実態を捉えるためのアセスメントの意義と目的について解説する。実態把握の方法として、生育歴、心理アセスメント、発達アセスメント、学力アセスメント、行動のアセスメント、学校や家庭など子どもが置かれている環境の把握等について述べる。各領域のアセスメントから得られた情報を総合して、どのように指導プログラムへと結びつけていくかについて概説する。

#### 【 キーワード 】

生育歴・環境の把握／発達アセスメント／心理アセスメント／学力アセスメント／行動のアセスメント

#### 【 到達目標と評価 】

- ①子どもの一般的な発達過程についてその概略を説明できる。
- ②さまざまな発達障害のある子どもの発達のな変化・発達課題について説明できる。
- ③アセスメントの意義と目的、アセスメントの領域、内容、方法について説明できる。
- ④アセスメントと指導の関係について説明できる。
- ⑤アセスメントをする際の留意点や倫理面について説明できる。

### ◇ 心理検査法Ⅰ：ウェクスラー式知能検査(6時間：2P)

#### 【 概要 】

「発達障害：学習障害(LD/SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、発達性協調運動症(DCD)等」の認知特性を把握するための代表的な基本検査であるウェクスラー式知能検査(WISC-Ⅳ・Ⅴ、WPPSI-Ⅲ、WAIS-Ⅳ)の理論と解釈について述べる。検査の目的と内容、主要な指標を中心に下位検査が何を測定しようとしているか、基本的な理解を図る。実施の概要、採点や結果の整理での所見にも触れながら、検査結果の解釈と検査報告書、結果の保護者への伝え方、結果を指導プログラムに役立てる基本的な方法について解説する。

#### 【 キーワード 】

ウェクスラー式知能検査／CHC理論／合成得点／全検査IQ(FSIQ)／指標得点／プロセス得点／結果の解釈／検査報告書／個人間差／個人内差

#### 【 到達目標と評価 】

- ①ウェクスラー式知能検査の内容と特徴を理解し、検査結果の意味を説明できる。
- ②各合成得点、個人内差などの用語を説明できる。
- ③各合成得点(指標得点)や下位検査がどのような能力を測定しているか基本的な説明ができる。
- ④検査結果に表れた個人の認知特性を読み取る方法について説明できる。
- ⑤検査報告書の結果を活用する方法について説明できる。
- ⑥検査の限界や他の検査結果、情報との総合的解釈について説明できる。

◇ 心理検査法Ⅱ：発達障害に関連する心理検査（6時間：2P）

【 概要 】

「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」のアセスメントに用いる KABC-II の概要について述べる。カウフマンモデル（認知尺度、習得尺度）・CHC モデルの 2 つの解釈モデルの考え方、各尺度及び下位検査の内容、目的及び検査結果の教育への活用について解説する。

【 キーワード 】

KABC-II /カウフマンモデル/認知尺度/習得尺度/ CHC モデル/長所活用型指導/クロスバタリーアセスメント(XBA)アプローチ/検査結果のフィードバック/発達障害に関連する心理検査:DN-CAS、Vineland-II、SRS-2

【 到達目標と評価 】

- ① KABC-II の内容と特徴を理解し、検査結果の意味を説明できる。
- ② KABC-II のカウフマンモデルと CHC モデルについて説明できる。
- ③ KABC-II の検査結果の教育への活用について説明できる。
- ④「発達障害」のアセスメントとして利用されることの多い、DN-CAS、Vineland-II、SRS-2 などの概要について説明できる。

◇ 学力のアセスメント（3時間：1P）

【 概要 】

アセスメントのひとつの柱である学力の実態把握の方法についてその概要を説明する。LD 等の判断だけでなく、心理アセスメントによる認知特性あるいは発達特性から、学習に関する支援のプログラムを立案するためにも必要な学力の実態を明らかにする。LD-SKAIP や LDI-R、KABC-II の習得尺度等についても説明を行う。

【 キーワード 】

学力のつまずき(読み書き、算数数学) /学力検査/ LD-SKAIP、LDI-R/ KABC-II(習得尺度) / RTI モデル

【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」のある子どもに見られる学力のつまずきの特徴について説明できる。
- ②学校でできるアセスメント（LD-SKAIP、チェックリスト等）と RTI について説明できる。
- ③基礎的な学力（聞く、話す、読む、書く、計算する）のアセスメントのポイント、ICT の利用の可能性について説明できる。
- ④学力のアセスメントを行う際の留意点について説明できる。

## ◇ アセスメントの総合的解釈(6時間:2P)

### 【 概要 】

各種検査結果と行動観察の結果、さらには学校での様子や保護者からの情報などを総合して、子どものつまずきを理解し、ニーズを把握する具体的手続きについて述べる。また、発達上のつまずきだけでなく、子どもの興味・関心や強みを活かして、個別の指導計画を作成していくプロセスについても説明する。事例を通して、複数の検査結果、行動観察記録、面談記録などを総合的に解釈し、指導仮説に基づいて具体的指導計画を立てることの意義を説明する。併せてアセスメントにあたっての保護者・本人への説明と同意などの基本的倫理面についても述べる。

### 【 キーワード 】

心理検査(知能検査認知検査)／学力検査／行動観察／保護者との面接／総合的解釈／個別の指導計画／アセスメントにおける倫理／事例による検討

### 【 到達目標と評価 】

- ①アセスメントに対する保護者本人への説明と同意など倫理的側面について説明できる。
- ②複数の検査結果を総合的に解釈する方法について説明できる。
- ③アセスメントの結果を個別の指導計画の作成に結びつける具体的な方法を説明できる。
- ④検査結果と観察記録、保護者からの情報などを総合的に解釈する際の配慮点と倫理について説明できる。
- ⑤アセスメントの結果を保護者や担任教師へわかりやすく伝えることができる。

## C. 指導

## ◇ 「個に応じた支援」と「合理的配慮」UDとICTの視点(3時間:1P)

### 【 概要 】

特別支援教育の根幹となる「個に応じた支援」及び「合理的配慮」について、ユニバーサルデザイン(UD)の教育の視点、ICT活用の視点から、それぞれ解説する。UDの考え方を教育に取り入れることの意義、あり方について、具体的な例も含めて解説する。ICT活用については、障害者権利条約に基づく権利保障としての合理的配慮、それに関わる基礎的環境整備の一環としての側面にとどまらず、特別支援教育における積極的な意義について、デジタル教科書や電子黒板、タブレット端末等を活用した具体的な例も含めて解説する。

### 【 キーワード 】

個に応じた支援／合理的配慮、基礎的環境整備／ユニバーサルデザイン(UD)の教育／ICTの活用／GIGAスクール構想

### 【 到達目標と評価 】

- ①個に応じた支援の全体像を説明することができる。
- ②障害者権利条約に基づく権利保障としての「合理的配慮」について説明できる。
- ③ユニバーサルデザインの視点から「個に応じた指導」及び「合理的配慮」について説明できる。
- ④ICTの活用の視点から「個に応じた指導」及び「合理的配慮」について説明できる。

## ◇ 「聞く・話す」の指導（6時間：2P）

### 【 概要 】

言語・コミュニケーションの発達とその困難を理解するために必要な音声言語学等の基本的知識を概説する。「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」のある子どもにみられる「聞く・話す」の困難の具体像について述べる。学校場面や日常生活場面における「聞く・話す」の問題の把握と分析の方法、ICT の活用を含めた支援の観点と方法、支援の実際について、事例を挙げながら具体的に説明する。近年、発達障害とされるようになった吃音、発達障害と関連することもある情緒障害（選択性緘黙）についても述べる。

### 【 キーワード 】

発声発語器官の生理／言語発達／音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論／コミュニケーションの発達／コミュニケーションの障害／聴覚認知／音韻認識／会話／ワーキングメモリー／特異的言語発達障害

### 【 到達目標と評価 】

- ① 言語・コミュニケーションの発達とその困難について基本的な説明をすることができる。
- ② 「聞く・話す」のアセスメント方法を具体的に挙げるができる。
- ③ 「聞く・話す」のつまずきの具体像とその原因について説明できる。
- ④ つまずきの特性に応じた指導プログラムの必要性がわかり、つまずきの原因と指導の方法・内容を関連付けて説明できる。

## ◇ 「読む・書く」の指導（6時間：2P）

### 【 概要 】

教科学習の基礎となる読み書きの困難について、日本語の文字体系における、その発生のメカニズムに関わる認知特性について系統的に概説する。「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」のある子どもにみられる「読む・書く」の困難の具体像について解説する。読み書き能力のアセスメント方法、仮名文字、漢字、英語の読みと書きのつまずきの原因と、原因に応じた支援方策、指導教材と支援の実際について、ICT の活用を含めた事例を挙げながら具体的に説明する。

### 【 キーワード 】

ディスレクシア（読字障害）／仮名、漢字、アルファベット／音韻認識／デコーディング、エンコーディング／流暢性／正確性／ワーキングメモリー／視覚認知／読解／作文

### 【 到達目標と評価 】

- ① ディスレクシアの基本的状態像について説明できる。
- ② 日本語の文字体系の特性と日本の読み書き障害の特徴を説明できる。
- ③ 「読む・書く」のアセスメント方法を具体的に挙げるができる。
- ④ 「読む・書く」のつまずきの具体像とその原因について説明できる。
- ⑤ つまずきの原因と指導の方法・内容を関連づけて説明できる。

## ◇ 「計算する・推論する」の指導（3時間：1P）

### 【 概要 】

算数・数学の学習の基礎となる「計算する・推論する」の能力の発達と困難について基本的な説明ができるようにすることが目標である。まず、「計算する・推論する」の内容がどのようなものか、そのアセスメント、つまずきの具体像とその原因について説明ができるようにする。さらに、つまずきの原因と指導の方法・内容を関連づけて説明ができるようにする。

### 【 キーワード 】

算数障害／数概念／基数性、序数性／ワーキングメモリー／文章題

### 【 到達目標と評価 】

- ①算数・数学の学習の基礎となる「計算する・推論する」の能力の発達と困難について基本的な説明ができる。
- ②「計算する・推論する」のアセスメントについて説明できる。
- ③「計算する・推論する」のつまずきの具体像とその原因について説明できる。
- ④つまずきの原因と指導の方法・内容を関連づけて説明できる。

## ◇ ソーシャルスキルの指導（6時間：2P）

### 【 概要 】

ソーシャルスキル指導の意義と目的について説明する。「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」のある子どもにみられるソーシャルスキルの課題と困難、及びソーシャルスキルのアセスメント方法について解説する。学校現場を中心にソーシャルスキル指導の目標・内容・方法を紹介しながら、具体的な活動を含めた指導の実際について説明する。将来の自立のために必要なセルフアドボカシーとしての自己理解や援助を求めるスキル、及びライフスキルについても述べる。

### 【 キーワード 】

ソーシャルスキル／ライフスキル／ソーシャルスキルの指導方法／感情と表現／適応／自尊感情／社会情緒的発達／自己理解／他者理解／セルフアドボカシー

### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害等」のある子どもにみられるソーシャルスキルの課題と困難について説明できる。
- ②ソーシャルスキルのアセスメント方法について説明できる。
- ③ソーシャルスキル指導の基本的な原理と指導法について説明できる。
- ④ソーシャルスキルに関連するライフスキル、セルフアドボカシーについて説明できる。

## ◇ 行動面の指導(6時間:2P)

### 【 概要 】

「発達障害:学習障害(LD/SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、発達性協調運動症(DCD)等」のある子どもが示す行動上のつまずき(授業への参加困難、多動性・衝動性、パニック、ルール理解や友人関係の困難など)について、その理解と支援に必要な基礎知識を解説する。行動面のアセスメント、実態把握のための行動観察、行動の変化を捉えるための記録方法、教室場面で役立つ指導技法の原理について、実際の支援事例を挙げながら説明する。行動への介入方法のひとつである応用行動分析の基本的な考え方として、子どものモチベーションを踏まえた、強化や機能分析についても述べる。学校における支援体制や学校と家庭の連携、チームアプローチのあり方についても述べる。

### 【 キーワード 】

応用行動分析／行動観察／環境アセスメント／強化(強化子)／機能的アセスメント／行動変容の方法／モチベーション／校内支援体制／保護者との連携／チームアプローチ

### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害」のある子どもにみられる行動上のつまずきの具体像とその原因について説明できる。
- ②行動面のアセスメントについて説明できる。
- ③子どものモチベーションを踏まえた「強化」と機能的アセスメントについて説明できる。
- ④学校場面における環境調整や「発達障害」のある子どもへの接し方について説明できる。
- ⑤学校における支援体制や学校と家庭の連携、チームアプローチのあり方について説明できる。

## ◇ 感覚と運動の指導(3時間:1P)

### 【 概要 】

「発達障害:学習障害(LD/SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、発達性協調運動症(DCD)等」のある子どもによくみられる感覚運動機能のつまずきについて、感覚の問題、視機能の問題、運動の不器用さなどを中心に、その観察の視点と方法、つまずきの要因の分析、学習や日常生活への影響について述べる。また、学校で実施可能な活動の具体例を紹介しながら、感覚運動機能のつまずきの指導の実際について述べる。

### 【 キーワード 】

感覚運動機能／目と手の協応／不器用さ(発達性協調運動症)／姿勢保持／感覚運動機能の指導

### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害」のある子どもにみられる感覚運動機能のつまずきの状態像について説明できる。
- ②感覚運動機能のアセスメント方法の基本について説明できる。
- ③姿勢保持の困難や不器用さが学習や日常生活に及ぼす影響について説明できる。
- ④視機能が学習や日常生活に及ぼす影響について説明できる。
- ⑤感覚運動機能のつまずきの指導方法を具体的に挙げるができる。

## ◇ 社会的自立・就労の指導(3時間:1P)

### 【 概要 】

「発達障害:学習障害(LD/SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、発達性協調運動症(DCD)等」及び境界域知能の青年期以降の社会的自立と就労の現状や課題について、障害者就労支援制度や障害者基本法等の制度も踏まえて解説する。青年期以降の課題と具体的な支援内容は、当事者の知的水準・適応水準によって多様であるため、職業リハビリテーションの場でアセスメントに関連して用いる TTAP、BWAP2 についても紹介する。また、社会的自立・就労に向けた具体的な準備が必要になる高等学校・大学期の支援の方針・内容、自立のために重要なアドボカシーについても述べる。小・中学校の教員にとっても将来を見据えた指導が重要であることの理解を図る。

### 【 キーワード 】

社会的自立／障害者手帳／ライフスキル／職業リハビリテーション／アドボカシー

### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害」のある青年・成人期の状態像について説明できる。
- ②自立と社会参加の観点に立った長期的支援の必要性を説明できる。
- ③日本の障害者就労支援制度の概略を説明できる。
- ④「発達障害」のある人の社会的自立・就労支援の現状と課題について説明できる。
- ⑤「発達障害」のある人の支援における教育と福祉、労働の連携の必要性を説明できる。

## ◇ 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用(6時間:2P)

### 【 概要 】

「発達障害:学習障害(LD/SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)、発達性協調運動症(DCD)等」のある幼児児童生徒の個別の指導計画及び個別の教育支援計画について、意義と目的、領域と内容について説明する。記録やアセスメントから得られたさまざまな情報から、幼児児童生徒の実態を把握し、課題等を整理して個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成するまでの実際について、事例を挙げて説明する。

### 【 キーワード 】

個別の指導計画／個別の教育支援計画／学習指導要領／長期目標／短期目標／指導の手立て／評価／PDCA／校内委員会／多機関・多職種との連携

### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害」のある児童生徒の教育支援における個別の指導計画の意義と目的、領域と内容について説明できる。
- ②個別の指導計画の構成内容を説明できる。
- ③学校における個別の指導計画の作成と活用の方法について説明できる。
- ④個別の指導計画の実施に必要な基礎的環境整備や合理的配慮を具体的に説明できる。
- ⑤個別の教育支援計画の策定についても説明できる。

## D. 特別支援教育士の役割

### ◇ 学校・園における支援体制Ⅰ：通常の学級における支援（3時間：1P）

#### 【 概要 】

通常の学級に在籍する「発達障害：学習障害（LD/SLD）、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、発達性協調運動症（DCD）等」のある児童生徒及びその学級担任への支援を実施するにあたって、支援体制の根拠となる学習指導要領や関連法案等を踏まえて解説する。幼稚園、小・中学校、高等学校等の通常の学級での、学級経営、授業における配慮や工夫について教育課程を踏まえた基本的な考え方を示し、発達障害のある子どもとその保護者、周りの子どもたちとその保護者に対する 具体的対応について述べる。

#### 【 キーワード 】

学習指導要領／教育課程／基礎的環境整備／合理的配慮／学級経営

#### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害」のある子どもが在籍する通常の学級における学級経営上の基本的考えと学級の基礎的環境整備、授業での合理的配慮や工夫について具体的に説明できる。
- ②学校・園で子どもの問題を共通理解することの必要性和ポイントについて説明できる。

### ◇ 学校・園における支援体制Ⅱ：通級による指導（3時間：1P）

#### 【 概要 】

通級による指導の変遷（通級による指導を受ける児童生徒の増加、2018（平成 30）年度からの高等学校における制度化）や通級による指導の概要（対象となる障害種、条件、指導内容・方法）について解説する。通級による指導は教育課程上「自立活動」に該当すること、通級による指導を行うにあたっては、個別の指導計画を立てることが義務となっていることなどを説明し、具体的な指導の内容について述べる。

#### 【 キーワード 】

通級による指導の制度の変遷／自立活動／自校通級・他校通級・巡回による指導／通常の学級との連携／専門機関との連携

#### 【 到達目標と評価 】

- ①通級による指導の制度の変遷、及び制度化された背景について説明できる。
- ②通級による指導の概要（対象、条件、指導内容・方法）について説明できる。
- ③通級による指導における通常の学級や専門機関との連携について説明できる。

## ◇ 学校・園における支援体制Ⅲ：コーディネーターの役割とリソースの活用（3時間：1P）

### 【 概要 】

S.E.N.S として知っておくべき、特別支援教育コーディネーターの役割、校内委員会の設定と運営、特別支援教育支援員等の活用と活用上の留意点、通常の学級と通級指導教室との連携等について解説する。さらに、専門家チームや巡回相談の活用と配慮のポイント、特別支援学校のセンター的機能の活用やその他の地域リソースとの連携、特別支援連携協議会などについても述べる。

### 【 キーワード 】

チーム学校／特別支援教育コーディネーター／校内委員会／特別支援教育支援員／地域リソースの活用

### 【 到達目標と評価 】

- ①特別支援教育コーディネーターの役割、学校・園における支援体制と連携について説明できる。
- ②通級による指導やその他のリソースの役割と連携について説明できる。
- ③特別支援教育支援員等の役割、活用と活用上の留意点ができる。
- ④専門家チームや巡回相談の活用と配慮のポイント、特別支援学校のセンター的機能や地域のリソースについて説明できる。

## ◇ 保護者とのかかわりと連携（3時間：1P）

### 【 概要 】

子どもの支援に不可欠な保護者との連携のあり方、及び連携を図る上で重要である「障害受容のプロセス」について解説する。保護者の心理の共感的理解と意思決定支援、保護者と学校・教師の関係調整など、保護者への支援の実際について述べる。特に、ライフサイクルの中で重要となる就学・進路に関する相談のために必要な「就学の手続き」、進路に関わる情報について解説する。また、保護者への支援におけるペアレントトレーニングの意義、方法などについても紹介する。保護者との連携を図る上で知っておくべき「親の会」についても述べる。

### 【 キーワード 】

障害受容のプロセス／意思決定支援／「就学・進路選択」に関する支援／スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携／ペアレントトレーニング

### 【 到達目標と評価 】

- ①「発達障害」のある子どもの保護者の障害受容のプロセスについて説明できる。
- ②「発達障害」のある子どもの保護者の支援をする際の基本的態度や意思決定支援について説明できる。
- ③保護者支援に関連するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携について説明できる。
- ④「就学の手続き」、進路に関わる情報提供等について説明できる。
- ⑤ペアレントトレーニングの基本について説明できる。

## E. 実習

### ◇ 指導実習(6P)

#### 【 概要 】

(実習の事前学習) 幼児・小学生・中学生・高校生等の通常の学級や通級による指導の事例、専門機関との連携が必要な事例などを紹介する。

(指導実習) 指導実習の目的は、実際の事例の検討を通じて、「発達障害」のアセスメントの総合的解釈から指導に至る過程を経験し、その実践的な力を高めることにある。受講者は、実習で提示される子どもの事例について、学習や行動のつまずきの原因と子どもの発達特性を分析し、教育的支援が必要な領域とその具体的内容について検討する。特に、学習面の支援を重視する。検討をもとに、個別の指導計画を作成し、通常の学級をはじめとするさまざまな場面で計画をどう実現していくかを考える。指導の計画と展開については、①通常の学級における配慮・支援の実際、②個別支援の場での指導内容と方法等を中心に、受講者同士でのディスカッションを含めながら、実践的な学習を図る。

#### 【 キーワード 】

(実習の事前学習) 実態把握／主訴／家庭の状況／生育歴・教育歴／学級の状況・学級での様子／学力／行動・社会性／言語・コミュニケーション／運動・基本的な生活習慣／身体・医学面／興味・強み／校内体制／諸検査結果／総合的判断／支援の方針／具体的な支援

(指導実習) 事例検討／アセスメントの総合的解釈／障害特性／学習の支援／個別の指導計画／指導教材

#### 【 到達目標と評価 】

- ①事例に関するアセスメントから、子どもの発達特性とつまずきの要因を読み取り、支援が必要な領域と支援内容を具体的に挙げるができる。
- ②子どもの学習や行動のつまずきと、それに対応する指導の方法・内容・教材等を具体的に説明できる。
- ③事例に関する個別の指導計画を作成できる。